

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

性的言動調査研究報告コホート

シェアハウス内言語実験

まるで物語のような女性の現実に寄せて

初版：2004年5月2日

最終更新：2019年9月22日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

目次

「岩崎式日本語」の実験

「岩崎式日本語」の実験

私たちは、もちろん一般的な日本語（他のアジアや欧米の寮生との間では時々英語、中国語、韓国語など）で寮（シェアハウス）生活を送っていますが、そのほかに「岩崎式日本語」という人工言語も時々使って生活しています。

岩崎式日本語は、特にある一定の精神症状、身体症状、性被害などを抱える女性たちの心と体に優しい文法を持っています。加害者である親族などに秘密の日記・手記を綴ったり、訴訟の準備草稿メモを書いたりするとき用いる言語です。

女現研の最高代表で、当寮の特別支援者・特別顧問である岩崎純一は、哲学・言語学の出身であり、この哲学的な新言語「岩崎式日本語」の考案者でもあります。

この言語のすばらしさに惹かれてきた当寮の女性スタッフたちの方針により、当寮がこの言語の実用のための実験施設になっています。この言語の百科事典である「岩崎式言語体系ペディア」の編集には、私たちも参加しています。

岩崎式日本語は、精神症状、身体症状、性被害などを抱える女性たちの心と体を救ってきた、役に立つ、美しい言語です。

ほかにも、東京藝術大学の関根ひかりさんが岩崎式日本語の研究をなさっています。また、岩崎の出身地である岡山県には、巫女さんたちによる岩崎式日本語や岩崎の哲学についての研究グループがあります。すべて岩崎（現在は岩崎純一学術研究所）のサイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。